# フジトランスグループ
# DXの取り組み

第2版　2024年11月
株式会社フジトランス コーポレーション

# トップメッセージ

近年、物流に対するニーズは多様化の一途を辿っています。　一方で、ドライバー不足に伴う「物流の2024年問題」や船員・港湾労働者不足の問題、IT分野における人財不足やセキュリティリスクによる「2025年の崖」の問題、世界的なパンデミックに起因する働き方改革が相まって、事業形態の急速な変化を求められています。

そこで当社グループは、2023年に開始した中期経営計画「フジトランス2030」を達成する手段の一つとしてDXに取り組み、業務プロセスの刷新と新しい価値の創造に努めてまいります。取り組みの基盤として社員がデジタルやITのリテラシーを高め、課題を自ら解決できるようマインドを変革することにも注力し、お客様に喜ばれる価値の高いサービスを創出します。

中期経営計画では「既存事業の改善と拡充」と「新たなビジネスモデル創出と進展」の二つの挑戦を継続していくという思いを込めて、あるべき姿・スローガンとして「『和』の精神＆KEEP ON TRYING 」を掲げました。DXの分野でも挑戦を続け、お客様のニーズにいち早くお応えし荷物と共に新たな価値と喜びをお届け致します。

フジトランス コーポレーション
代表取締役社長　系井　辰夫

# 目　次

1. DX方針
2. DX戦略－１、２
3. 推進体制
4. 環境の整備
5. 課題・施策・指標
6. 進捗／成果確認
7. セキュリティ対策

# 1. DX方針

## スローガン「KEEP ON TRYING」の下、グループ全体でDXを推進します

業務課題や業務の困りごとをデジタルで改善、解決する『改善DX（守りのDX）』からスタートし、
新たなビジネスモデル創出＝『戦略DX（攻めのDX）』を目指す

**戦略DX（攻めのDX）**
2025～2030

**改善DX（守りのDX）**
2023～2030

当社グループ独自のDXへの取り組みを

**「FDX ：FUJITRANS DX」** と呼称します

# FDX ：FUJITRANS DX

FUJITRANS

◇ どのようなFDXに取組むか
ビジョン：フジトランス2030　デジタル化－人々の喜びのため/幸せの量産

**●お客様に喜ばれるFDX：**

安全・品質を補完・向上し、お客様のニーズに迅速にお応えできるDX

**●仕事を楽にするFDX：**

職場環境・業務効率を向上し、より価値の高いサービスを提供できるDX

①デジタル技術に強い事業基盤の整備（人財育成、サイバー攻撃への対策強化）

② 情報共有の促進とムダ・ムラの排除による業務の効率化

③ 物流のデジタル化への対応

④ デジタル技術を活用した新たなサービスの創出

# DXマインド醸成

FUJITRANS スローガン

**Keep on Trying**（大変革期　⇒　業務変革、新たなビジネスモデル創出）

⇒　全社的なDXマインド醸成（①デジタルマインド＋②変革マインド）が必要

**①デジタルマインド醸成**

→デジタル技術を知り、業務に活かす術

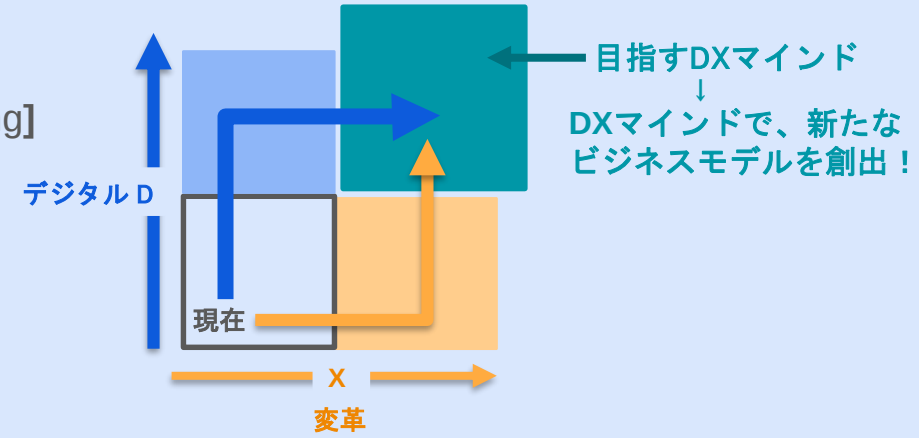
[ある程度学習で向上できる ＝勉強会／e-learning]

**②変革マインド醸成**

→　問題発見思考

→　現状のやり方を変える思考の浸透

[OJTで身に着く ＝ DX活動への取組み]




FDXへの取組み⇒DXマインドの醸成→人財育成とデジタル課題解決はDXの両輪

# 2. DX戦略－１

当社グループのDXの取り組みは、基盤を土台に大きく二つのステップで進めます。

2023年　～　2030年

**Step 1　改善DX（守りのDX）**

- **働き手不足対応、働き方改革の推進**
  情報共有、IT化、ムダ・ムラの排除
  ⇒業務効率の改善
- **港湾や物流のデジタルPFとの連携**
  デジタル化への対応、各種プラットフォーム連携によるサービス向上
  ⇒機会損失防止

2025年　～　2030年

**Step 2　戦略DX（攻めのDX）**

- **物流に対するニーズの多様化、カーボンニュートラルへの対応**
  新たなニーズへの対応
  先取りするサービスの創出

**基盤　デジタル・ITリテラシーの向上、サイバーセキュリティの対策強化**

# 2. DX戦略－２　具体的DX戦略

## Step 1　改善DX（守りのDX）

2023年　～　2030年

1）バックオフィスDX：業務効率化、ペーパーレス
- スマホ対応保養所予約システム
- 社員食堂のキャッシュレス決済
- チャットボット（FAQ）によるヘルプデスク機能自動化
- ワークフロー、印鑑押印デジタル化
- 事故報告デジタル化
- 社用車管理のデジタル化（appsheetにて開発）

2）港湾／物流DX：業務効率化、PF（プラットフォーム）連携、ペーパーレス
- トラック自動配車システムと倉庫内作業PF連携
- 安全／品質向上の為の協力会社、荷主間情報共有化システム
- 担当者によるRPA学習＆独自開発：通関自動処理化、請求書自動作成、船社デイリー報告自動化他
- FAXのペーパーレス化
- 貨物写真撮影自動仕分け／自動情報共有化

## Step 2　戦略DX（攻めのDX）

2025年　～　2030年

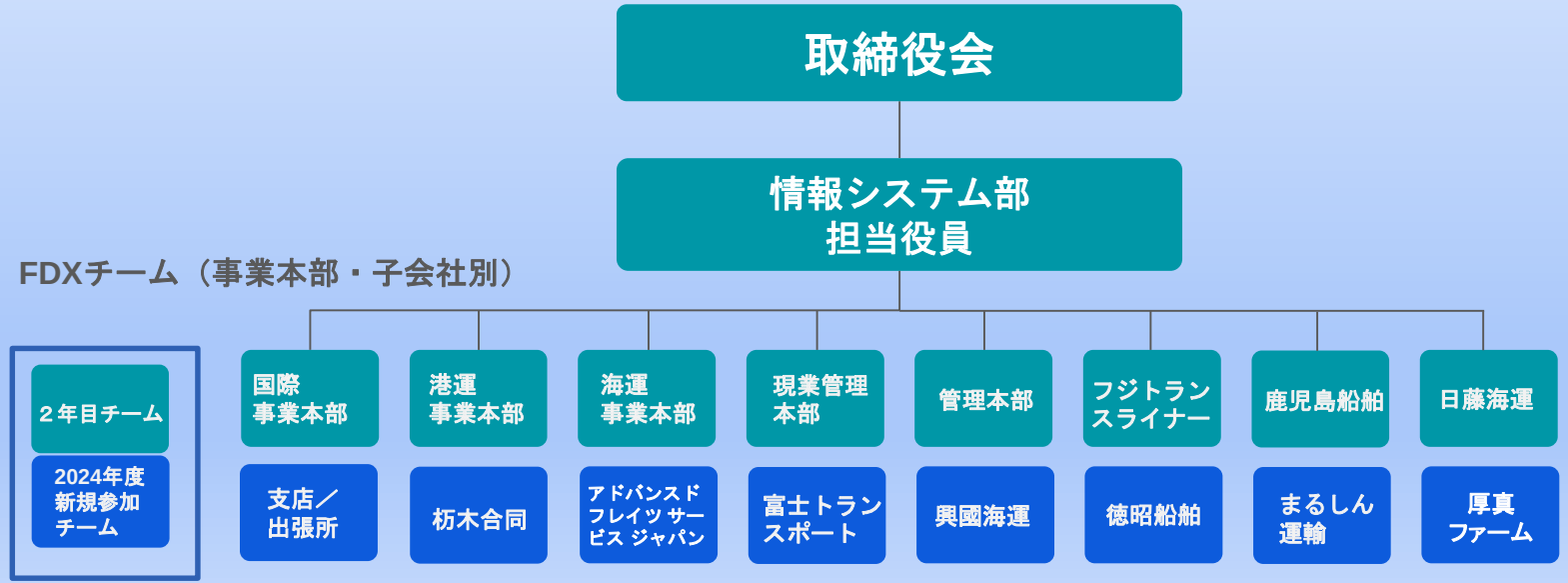
1）PF一元化によるデータードリブン経営、サービス向上
2）AI活用による先回り経営及び安全管理／未然予測、防止
3）デジタルフォワーダー化推進
4）バックオフィスの更なる自動化／省人化
5）倉庫、現場作業の自動化推進
6）作業環境のIT管理
7）海上モーダルシフトによる複合一貫輸送CO2排出量自動計算、数値化による顧客への提案、カーボンニュートラル推進

## 基盤　デジタル・ITリテラシーの向上、サイバーセキュリティの対策強化

# 3. 推進体制 2023年 8FDXチーム　⇒　2024年16FDXチーム グループ全体に活動拡大

・2023年度よりFDXに取組み、2024年度2年目を迎えた5事業本部+3子会社（8チーム）は
それぞれの進捗に合わせ、チームの継続（メンバー変更なし）／再編／新規組成を検討
・新たに参加の支店出張所+7子会社（8チーム）は、推進メンバー選出、課題抽出、テーマ選定、取組み開始

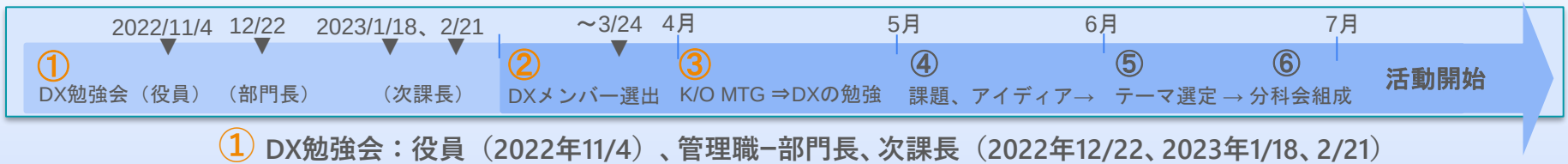
各チームには推進責任者（担当役員１名）とデジタルサポーター（情報システム部員２名）が参加する
⇒　各事業本部／子会社FDXメンバー + 担当役員 + 情報システム部⇒　三位一体体制



# FDXの進め方－１：DX勉強会⇒チーム組成⇒Kick off MTG

FUJITRANS

[スケジュール]

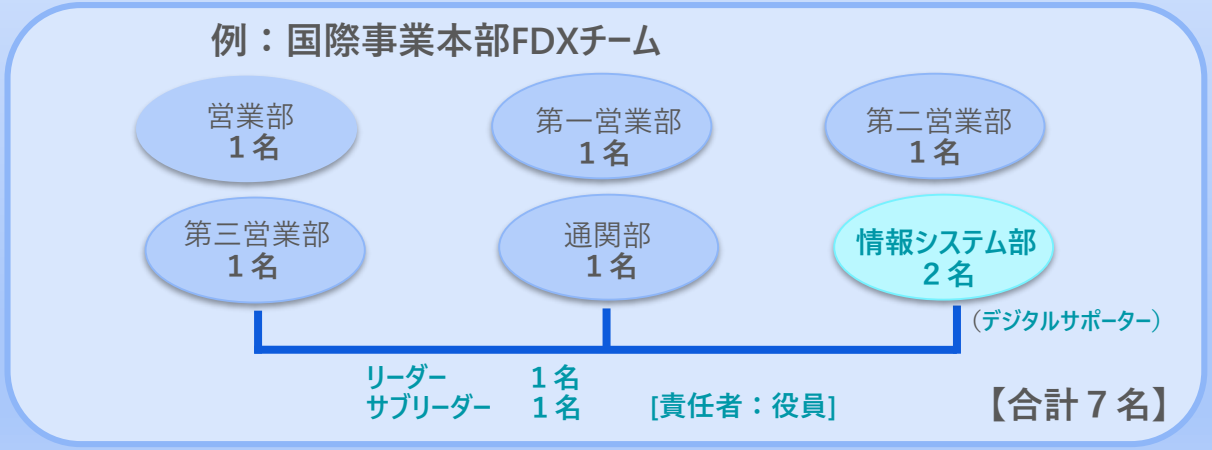



① DX勉強会：役員（2022年11/4）、管理職ー部門長、次課長（2022年12/22、2023年1/18、2/21）

② チーム組成：各事業本部ごとにFDXメンバーを選出し、デジタル改善(FDX)チーム組成 (～2023年3月24日)

各事業本部５～６名ほど（出来れば各部門より平均的に）メンバー選出、推進責任者ー役員１名

→ リーダー、サブリーダーの選出+デジタルサポーターとして情報システム部２名参加




③ Kick off MTG (2023年4月11日）：参加－FDXチームリーダー、推進責任者（役員）

推進方法の共有⇒国際事業本部先行取組DX推進方法紹介、e-learning/YouTubeご紹介他

# FDXの進め方－２：課題／アイディア抽出⇒FDXテーマ選定⇒分科会組成／デジタル解決

FUJITRANS

2022/11/4 ▼ 12/22 ▼ 2023/1/18、▼ 2/21 ▼ ～3/24 ▼ 4月 5月 6月 7月

① DX勉強会（役員） （部門長） （次課長）

② DXメンバー選出 ③ K/O MTG ⇒DXの勉強 ④ 課題、アイディア→ ⑤ テーマ選定 → ⑥ 分科会組成

活動開始

継続繰返し

④ **課題／アイディア抽出**：全員参加で、業務の課題、アイディアをランダムに複数挙げる→**３８４件の課題抽出（実績）**

⑤ **FDXテーマ選定**：チームごとに課題の中で喫緊解決必要、取り組みやすい、成果が出やすい取組テーマを選定

スモールスタートがベター⇒成功体験を味わう（小さな成功の積み重ね－モチベーション維持)→**３０テーマ選定（実績）**

⑥ **分科会組成／デジタル解決**：取組テーマごと各部で分科会組成－テーマによってはチーム横断的分科会組成

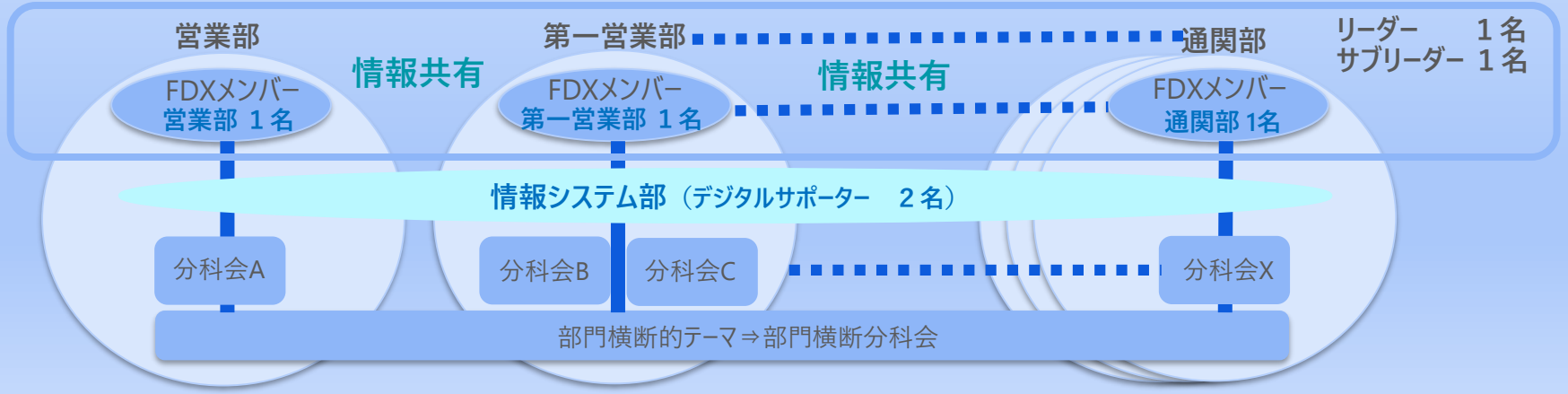
FDXメンバー中心に分科会ごと、**デジタルサポーターと共にデジタル技術で課題解決に臨む**、主体は各部門

**※各チーム取組進捗／成果を社内サイトにて公開、情報共有**

継続繰返し

**ＤＸマインド醸成**

**チーム構成例：国際事業本部FDXチーム　７名（メンバー5名、デジタルサポーター２名、推進責任者：役員1名）**



# 4. 環境の整備

FUJITRANS

| | |
|---|---|
| 1. DXに関する理解度向上の取り組み | ・外部講師による階層別DX勉強会の開催（2023年度）<br>・e-learning環境の整備（2023年度） |
| 2. グループ全体のデジタルリテラシー向上の取り組み | ・IT資格取得者への褒賞金制度の整備（2023年度～）<br>・情報システム部主催のデジタル活用勉強会開催（2023年度～）<br>・標的型攻撃メールに対する訓練、e-learningによる教育（2023年度～）<br>・ITリテラシーアセスメント→レベルに合った適正な教育（2024年度）<br>・社内共通ノーコード、ローコードツール選定／教育（2024年度） |
| 3. 情報の共有 | ・推進責任者が3ヵ月ごとに取締役会で各チームの進捗と成果の報告を行う<br>・社内イントラに各FDXチームの進捗状況を可視化できる専用サイトを設置<br>・中間報告会、総括報告会開催（2023年度～） |
| 4. 人事評価への反映 | ・FDXの取組み、活動を人事評価へ反映（2024年度） |
| 5.レガシーシステム刷新 | ・最新システムへのスムーズな移管を目指し、レガシーシステム刷新加速、推進（2024年度ほぼ完了） |
| 6. DX予算設定 | ・チーム、案件ごとにDX予算適用申請により、費用を別枠で設定したDX予算を使用することで各部門へのコスト負荷をなくし、積極的な取組を促進する |

# 5. 課題・施策・指標

| | 課題 | 施策 | 指標 |
|---|---|---|---|
| **DX人財育成・DX文化醸成** | ・リテラシーの向上 | 社員教育の実施<br>IT資格取得者　褒賞金制度 | e-learning受講者数<br>100人／年<br>資格取得者数 10人／年 |
| **改善DX**<br>（守りのDX）<br>2023～30年 | ・労働人口の減少<br>・働き方改革の推進<br>・ダイバーシティの重視 | 業務効率・生産性の向上 | 案件数 5件／年／チーム<br>実績数 2件／年／チーム<br>工数・コスト削減<br>⇒　帳票印刷枚数減<br>人時生産性UP |
| **戦略DX**<br>（攻めのDX）<br>2025～30年 | ・物流ニーズの多様化<br>・カーボンニュートラルの推進 | 新しい価値の創出 | 案件数 2件／年／チーム<br>実績数 1件／年／チーム |

# 6. 進捗／成果確認

FUJITRANS

【デジタルサポーター（情報システム部）】

| | | |
|---|---|---|
| デジタルサポーター<br>定例MTG<br>（１回／月） | 参加：デジタルサポーター<br>（情報システム部部員） | 各チーム　進捗／課題／対処共有、<br>意見交換、横展、新技術の情報共有 |

【役員情報共有】

| | | |
|---|---|---|
| FDX進捗報告<br>（１回／3ヵ月） | 報告対象：役員<br>報告者：情報システム部担当役員 | 各チーム　進捗の報告 |

【グループ全体】

| | 参加者／報告者 | 報告内容 |
|---|---|---|
| 中間報告会<br>（10月開催） | 報告対象：役員<br>報告者：各チーム担当役員、リーダー | 各チーム　進捗、効果、成果 |
| 総括報告会<br>（5月開催） | 報告対象：役員、FDXチームメンバー<br>報告者：各チーム担当役員、リーダー | 各チーム　進捗、効果、成果、課題<br>総括、共通課題対処検討 |

# 7. セキュリティ対策

サイバー犯罪が社会問題や企業間取引の障害として大きな問題となっている現況を鑑み、
全社を挙げて対策を講じる。

1. 情報セキュリティ管理規程　制定／施行（2023年度／本社）
2. 情報セキュリティ委員会組成（2023年度／本社）
3. 自工会サイバーセキュリティガイドラインに則った自己診断の実施（2022年度から実施中／本社）
4. 標的型メールに対する訓練、e-learningによる教育の実施 （2022年度から実施中）
5. 各拠点のサーバ及びクライアントへのMDRサイバー攻撃監視サービス導入（2023年度から実施中）
6. プラットフォーム脆弱性診断（2023年度から実施中）
7. 指定USBメモリの限定使用、使用状況の把握、監視管理（2023年度から実施中）
8. 外部セキュリティー監査実施（2024年度）
9. ASM （Attack Surface Management）外部公開資産の脆弱性診断自動化実施（2024年度）